

## 田村尚亮先生・追悼の記

順天堂大学大学院 医学研究科呼吸器内科学 高橋和久



田村尚亮先生 近影

田村尚亮先生が急逝されたのは平成28年7月27日のことでした。5月に胆管がんの診断が下され、それから2カ月半の壮絶な闘病生活でした。享年61歳というあまりにも早いご逝去に愕然とした思いであり未だに現実が受け入れられない状況です。心からご冥福をお祈りいたします。通夜の当日は朝から雨でしたが式の直前にあがり田園調布の多摩川の上にきれいな虹がかかりました。これも学生時代演劇部であった田村先生の演出かもしれません。田村先生と最初にお会いしたのは私が大学院2年生の時、1990年でした。NIHのRonald Crystal先生のラボでの研究を終わり、同年1月に順天堂大学呼吸器内科に帰国されました。私は当時、サルコイドーシスや過敏性肺炎などの免疫学的呼吸器疾患の気管支肺胞洗浄（BAL）の手技と解析を学び始めたときであり、田村先生にはBALのほかフローサイトメトリー、PCR、Western blotなどの研究手法を一から教えていただきました。持前の豪快さ、明るさに加えて卓越した指導力に多くの医局員が魅了され田村先生にご指導いただきました。田村先生の帰国以来、当科の研究が活性化し、多くの学会発表、論文がサルコイドーシスや過敏性肺炎などに関するものでした。正に田村先生のリーダーシップにより生み出された研究成果といっても過言ではありません。私が最初に国際学会で発表したのは、マイアミで開催されたATSでした。現在では想像できませんがATSの後、先生とジャマイカに行き数日間過ごしました。その時も田村先生はコテージの中で実験データの解析を

していたことを昨日のように覚えています。1993年からは順天堂大学呼吸器内科の講師としてサルコイドーシス外来の立ち上げ臨床データベースの構築などのほか、教育、研究にもご尽力いただき、多くの研究業績を残されました。その後、江東病院の部長として異動され、2007年からは副院長として呼吸器臨床・教育・研究のみならず、病院経営にも携われ、電子カルテの導入をはじめ多くの功績を残されました。順天堂大学呼吸器内科の客員准教授も兼任していただき、当科の医局員も数多くご指導いただきました。

また、田村先生は日本サルコイドーシス肉芽種性疾患学会の評議員・日本サルコイドーシス肉芽種性疾患学会雑誌の常任編集委員として非常に多くの仕事をされてこられました。先生のご専門のサルコイドーシスだけでなく呼吸器疾患全般にわたり魅力的な学術論文を出版することに尽力されてきました。編集委員長の森下先生、事務局長の山口先生からも田村先生の同委員会における業績をお聞きしております。田村先生は本学会の発展を心から祈っておりました。今年春に開催された関東支部会の会長を拝命し、魅力的な会にすべく企画運営をされてきましたが、闘病中のため当日は参加ができませんでした。さぞかし無念であったことと思います。

今後は田村先生の遺志を引き継ぎ、本学会の発展のために、先生に育てていただいた後輩医局員とともに精進してまいります。先生が愛された江東病院呼吸器内科、ご家族に

〔追悼文〕

---

対しても精一杯支援させていただきます。サルコイドーシスのみならず、呼吸器疾患全般に類まれな業績を残された田村先生に深甚の敬意を表するとともに、ご指導いただい

た後輩の一人として、心からご冥福をお祈りいたします。田村先生 本当にありがとうございました。安らかにお休みください。